

第2回 出雲市特別職報酬等審議会 議事録

1. 開催日時 令和5年10月24日（火） 13:25～14:30

2. 開催場所 出雲市役所3階 庁議室

3. 会議の出席者

(1) 委員（8名）

会長：福間 正純委員

会長代理：吾郷 美奈恵委員

委員：浅津 知子委員、岩田 宜晃委員、甲山 美紀恵委員、曾田 厚子委員、
珍部 誠委員、金村 英俊委員

※欠席者2名（布野 敏次委員、山崎 茂樹委員）

(2) 出雲市（7名）

三島総務部長、三原総務部次長（人事課長）

人事課：曾田課長補佐、藤原係長、吉岡主任、矢野主任、持田主事

4. 次第

(1) 開会・資料確認

【資料5】 令和3年度中期財政計画について及び出雲市の台所事情

【資料6】 議長・副議長の活動状況及び議会日程について

【資料7】 給与及び報酬から控除されるものについて

【資料8】 令和4年度決算に基づく「健全化判断比率」等の算定結果について

【資料9】 総務省「地方議会・議員のあり方に関する研究科報告書 概要」

(2) 福間会長あいさつ（要旨）

お忙しい中おでかけいただきありがとうございます。

審議会の性格上、限られた期間の中で一定の結論を出すことになる。

みなさんの忌憚ない意見をいただきながら組み立てていきたい。

(3) 議事

- ①前回の議事録の内容の修正点の有無についての確認【人事課 藤原係長】
委員からの意見なし

②「前回説明に対する意見等」の説明

【委員】の意見として、

- ・カット後ではあるが、類似団体の副市長より当市の市長の月額報酬が低いというのはありえないのではないかと。将来負担比率は先人のツケがまわったものである。
- ・近年たまたまエネセンや新体育館の建設が重なり、市債残高が増加しているのは、致し方ないのではないかと。
- ・現時点では特別職全般の報酬は、長期間減額措置をしていたので一定額(金額は別途協議)増額したら良いと思う。
- ・また、市議会各職の報酬については、他市と大きな開きがないと思うので、据え置きにしてはどうか。

【委員】の意見として、

- ・出雲市は控え目な報酬になっていると感じられた。
- ・市長についても、仕事上の責任等を考慮すると、もう少しアップされたいのではないかと。

【委員】は質問をいただいた。

- ・福利厚生や、経費として支給されるもの、それから所得から控除されるものがあれば教えてほしい。また、他に自己負担をしているものがあれば、配慮すべき。
- 上記3委員からの意見の回答は資料で説明。

③提出資料についての説明 【人事課 藤原係長】

■令和3年度中期財政計画について 出雲市の台所事情【資料5】

(「出雲市の台所事情」の冊子で説明)

- ・2ページ目の「お金が足りないって本当？」で収入支出のバランスについて記載。
- ・「収支の状況」では収支のバランスとしては、赤字が発生する見通しになっており、この赤字部分を、基金残高で埋めていき、事業を行っていく。そのため、基金は少しずつ減っていく見通しとなる。
- ・3ページの④では出雲市の借金を少しずつ減らしていく計画をたてている。
- ・4ページの⑤では前回お話をした健全化の指標を試算してだした数字である。
- ・2031年のグラフを見ると実質公債費比率が11.2、将来負担比率が98.3という目標となっている。

■議長・副議長の活動状況及び議会日程について【資料6】

- ・前回の審議会では議長・副議長の公務日数と議会の開会日数について質問があった。議会事務局から資料の提示を受け、こちらで集計したものを掲載している。過去1年間で集計をしており、令和4年10月1日から令和5年9月30日までを記載している。
- ・1番目が、議長及び副議長の公務日数である。

(1) で役職により出席する会議等を記載している。

議長、副議長としての参加、又は招待を受けて出席した会議などを載せている。

議長は回数で言うと177回。副議長が110回。また1日の間で複数の会議等に出席することもあるので、日数で言うと、議長が137日。副議長は94日。

- (2) では、議会運営のための会議を集計している。

これは議会の開会時や議会運営のために活動したものの回数を、集計している。

本会議以外にも、議会の運営委員会、常任委員会、事務局との協議などもあるので、議長が211回。副議長が221回。日数で議長は119日、副議長が127日。

- 役職等で出席をした会議と議会運営のための会議のすべてを合わせると、日数については、議長が215日、副議長が192日となる。

- 議会開会日数について、過去1年間を集計している。

議会の開会日としては117日あるが、実際に議員が出席した日を集計すると、60日となる。この集計の他に議員の活動として、会議の出席のほか、特別委員会とか市政調査研究会を作って、勉強会や市政運営などを、各テーマ内容ごとに活動・調査をしている。その日数はここには入っていない。

- 次のページは、一番直近の議会運営の日程をまとめたもの。8月30日が本会議で開会日となるが、その前から議会運営委員会が開催され、その間、開会から、常任委員会、特別委員会、本会議、予算特別委員会、常任特別委員会がそれぞれある。右側に、議長として出席しているものに丸をつけている。議長が委員として参加したものについては、委員と記載しており、副議長も同じ。議員の欄については、参加する必要がある議員の人数を記載している。議会運営委員会の場合、9名が所属しているので、9。本会議の場合、全員が出席するため、27となっている。

■給与及び報酬から控除されるものについて【資料7】

- この資料は、吾郷会長代理からの質問について回答するもの。市長、副市長、教育長については給料から控除されるものは基本的なものとして社会保険料、所得税、住民税。

また、福利厚生や経費として、逆に支給されるものがないかということだが、追加で支給されるものはない。

- 議長、副議長、議員については、報酬から控除されるものは所得税。希望があれば住民税も控除するが、そういった基本的なものしか控除されていない。

福利厚生や経費として、追加で支給されるものもない。

- 特別職や議員の自己負担について、出雲市議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例があり、「議員がその職務を行うために旅行したときは、出雲市職員等の旅費に関する条例の規定による市長の受ける旅費に相当する額の費用を弁償する。」ということが記載されている。

よって、出張の時には、市長が実際に旅費として受け取るものを、同じように議員も

受け取るということになっている。

この出雲市職員等の旅費に関する条例の対象は市長、副市長、教育長、上下水道事業管理者で同じ金額である。市長が受ける旅費については、鉄道賃、船賃は規定額を支給するというになっている。またグリーン車両は使用が可能である。

東京都周辺への出張については飛行機を利用して実費を支給することになっている。その他に支給されるものは、日当で3,000円。

宿泊する場合は、県外で1万4,800円。県内は1万3,300円となっている。

これは金額が決まっているので、これを超えれば自己負担ということにはなるが、基本的には個人負担はないということになっている。

■令和4年度決算に基づく「健全化判断比率」等の算定結果について【資料8】

- 前回は説明したが、健全化判断比率の令和4年度の決算の数字の全国のものが発表されたので、出雲市の順位を記載している。
- 全国順位は、実質公債費比率は、795団体のうち悪い方から40位。
- 将来負担比率については、悪い方から5番目という結果になっている。
- 【資料8-2】に、県内8市、近隣市等の順位をまとめたものを記載している。
- 将来負担比率については、出雲市が一番悪い。
- 類似団体では、一番出雲市に近いところで高岡市。それでも出雲市の方が、悪い結果にはなっている。

出雲市だけで見ると、改善はしてきているが、全国的に見ると、改善の進捗状況が遅いということが分かる。

■総務省「地方議会・議員のあり方に関する研究科報告書 概要」【資料9】

- 前回議員のなり手不足についての追加資料。「議員のなり手不足の要因と対応」、その要因が、(2)、(3)、(4)、(5)。
- (2)で立候補環境については、定数がだんだんと減ってきているというのもあり、得票数が高くなってハードルが上がってきているのではないかという意見。
また、立候補に伴う休暇保障では、仕事を休んで立候補し活動するということになるので、勤めている方にとってはハードルが高いという意見。
- (3)の時間的な要因については、議員の活動する時間が大変多いということで、それが制約されているのではないかという意見。
- (4)の経済的な要因については、委員報酬が低いという意見があったようで、小さい団体になればなるほど、報酬が低くなるので、報酬で生活をしている議員にとっては、生活が維持できないぐらいの低水準だということも、要因になっているのではないかという意見。
- (5)身分に関する規定については、兼業、請負の禁止、それから兼職の禁止という規定があり、ここがネックになっているのではないかという意見があったよう。

④提出資料に係る質疑

【委員】 前回の資料と議事録のことで伺いたい。

1点目は、月額報酬を決めるのか年収を決めるのかという中で、あわせて、期末手当3.3カ月、加算率などの部分で、普通の会社ならその年の事業の状況によって期末手当を減額するなど状況によって決めるが、この期末手当の部分は変わるのかそのままなのか。

2点目は、減額するのは本人の意志なのか、何らかの会議で決定されたものか、もう一度確認したい。

3点目は、市長は通勤手当があるとなっているが、送り迎え付きではないかと思うが、そのあたりの整合性について伺いたい。

【事務局】 まず1点目だが、月額報酬が妥当かどうかということを決めていただきたい。期末手当の月数については、一般職もだが、この報酬等審議会での対象にはなっていない。国の人事院勧告にならっており、国の場合、本省の審議官や局長という職があるが、そういった職が地方自治体であれば特別職にあたる。国に準拠して決めるのが妥当であろうということで、人事院勧告に連動している状況である。

2点目の市長、副市長等の特別減額については、これは今の市長の意志で条例を上程している。前の長岡市長もそうだが、これは市長の考えで行っている。

【事務局】 通勤手当については、支給できることにはなっているが、市長の場合、送迎があるため、通勤手当は支給していない。

【委員】 財政状況のワースト、ワーストというのが衝撃だった。この立場になって初めて再認識した。とはいえ、私の考えとしては、ワーストに触らない程度だと思うので、非常に重責な仕事であるので、そろそろ出雲市として、近隣市と比較しても少し上げるべきではと思う。

【委員】 県内の都会というと松江市や出雲市であり、県外の似たところだと、都会地の周辺の市が同じようなところとして比べられていて、結構高い。都会のまわりより田舎の方が大変なので高くてもいい気がする。職種によって、医療従事者などは田舎の方が高いことがある。本当にこのままでいいのかなとは思っている。ただ、赤字からいくと大盤振る舞いはできないのはわかる。悩むところかなと思う。

また、給料は触れないにしても、福利厚生でいうと、東京出張で14,000円ではなかなか泊まれないのでは。だいぶ自己負担しているのではないかと思う。

タクシー代も出されているのではと思うが、給料以外の部分は変えていく必要があると思うし、職員と同じではどうかと思う。

給料というより、旅費の部分を早々に整備していく必要があるの

ではと思う。

【事務局】 さきほどの説明の補足で、県外出張した場合の宿泊費だが、一般職の場合は県外で13,100円、県内で11,800円。日当は2,200円ということで、若干、特別職が高くはなっている。

【事務局】 今は東京に行くと、ホテルが高騰しており、出張の時は一般職からも低いという意見がある。(持ち出しになる?) (そうなる)

【委員】 財政がどうかということと、仕事をやってもらうということも含めて、上げられるところは上げていいのではと思うが、そのバランスが難しいと思う。個人的には上げてもいいという思いがある。

【委員】 市長・副市長はさることながら、教育長は色々と報道関係で頭をさげているのを見ている。平成17年からの推移をみていると若干ながらアップはしていると思うが、出張したらマイナスになるというのはどうかと思う。

議員さんや市長、副市長がいて、この出雲市が健全に成り立っているので、この金額でというのは、5年前からは色々上昇しているのでアップするのが妥当ではないかと思う。

【委員】 市長や議長はトップで、市の顔というのはものすごい責任がある。その立場でやっているのだから、健全化でワーストと聞くとドキッとするが、その部分はどこかでやりくりするにしても、トップとしてがんばっていただく必要があるのだから、ベースアップしていいのでは。

出張については、給料は給料でもらっているのだから、一般職は日当が2,200円で少ないと言っているかもしれないが、県内で1万1,800円なら結構あるような気がする。どっちかというところ、市長や議長は東京や大阪への出張が多いと思うので、状況に応じて負担がないようにすべきと思う。

給料を上げてという部分は財政健全化とのバランスを図る必要があると思うが、出張の部分については、場所によっては上限を決めつつ臨機応変にすべきではと思う。

【事務局】 旅費については、実際の金額に合わせてというのが基本となっており、手出しがあることは前提にはなっていない。

ただ、こここのところ急激にホテルの単価が上がっている。コロナの流行った時期は安かった時期がずいぶん続いていた。ここにきて急激に高くなってきている。

【委員】 財政状況が悪いのは知っていたが、かなり悪いことに改めてびっくりした。その中で、市長や議長の給料の検討ということで、出雲市の財務状況が少し健全化に向かっているのであれば、少しアップしてもいいと思うが、この財務状況で上げていいか不安もある。

出張については、公務として、手出しは考えるべきであるし、市の代表として恥ずかしくない給料をと思うので、少しアップしてもいいのではと思う。

【委員】 類似団体を見ていく中で、例えば長野県上田市は周りに大都市がない出雲市と環境が似ていると思うので、上田市を参考にしてはどうか。

【委員】 会長を困らせる発言かもしれないが、赤字で悪いからこそ、報酬を上げて、やる気のある人をもってくるという発想もあっていいのでは。

【事務局】 先ほど赤字との発言があったが、出雲市の財政状況は赤字ではなくて、他市と比較すると、家計に余裕があるわけではないというふうにご理解いただきたい。

もう一点。市の場合は、入ってくる収入は税収や、交付税がある。何も事業をしなければ、支出が減り、黒字化に向かいやすくなるが、市として、果たすべき責任役割があるので、事業は行っていくというバランスの中での話になってくるので、一旦、借金が増えてしまうと返しにくいという面があるというところは、ご理解いただきたい。

【委員】 日当やホテル代について、市長としてこの金額には驚いている。一般職は2,200円で市長が3,000円というのは改めて思うところがある。ある程度、市長としてふさわしいホテルで泊まってほしい。財政が苦しいので大幅にとは言わないが、もっと前に向かって行くという意味で、なんでもかんでも縮こまらないでほしいというのが、市民としてはある。

健全な数値をきちっと出して本体に影響しないような中で、市民の期待を込めてアップに向かうのがいいと思う。

【会長】 皆さんに忌憚ない意見を出していただいているので、この方向に沿って進めていけたらというふうにした。

仕事の内容と金額があっているかという議論はさすがに難しいのではと思っているなかで、実際、議長・副議長の公務内容もわかって、参考になったと思う。

財政面は別の行財政改革審議会で進んでいるんですね。

【事務局】 はい、進んでいます。

【会長】 進捗状況などはそちらで議論されるということか。

【事務局】 来年から新たな大綱と、新たな実施計画を策定することにしており、行財政改革を進めていく。現行の第二期計画においては、当初の目標を上回るような成果が挙がってきている。

順調に回復をしているというのは間違いない。ただ、もともとの借金が少し大きかったので、なかなか思うようにいかないところはある。

【会 長】 必要なインフラ整備は、例えば、小学生が少なくなって学校の統合による新校舎の建設などは、その時に投資し、より良い教育環境を整えるという判断が必要になってくると思う。それに伴い起債した部分が残っているというふうに受けとめているので、必ずしも公債費比率が高いから無駄遣いしているわけではないと個人的には感じている。

今の計画でいくとかなり人件費の支出は、今後も抑えていく計画で進めていかれるところだと思う。人口減少ということもあるので、もっともっと行政のDXを進めてもらえたらと感じている。

今の委員の皆さんの発言からいくと、基本的には上げていく方向性と思うが、いかがか。(全員同意) ありがとうございます。

今度は財政状況を見てだが、どれくらい上げるかということになる。シミュレーションは事務局で作ってもらうということでもいいか。

【事務局】 事務局で案をいくつか示させていただく。

ある程度の幅を持たせて、それぞれの数字の根拠も示させていただきながら、提案させていただくということによろしいか。

【委 員】 年収のほうがイメージがわきやすいので年収も提示してほしい。

【会 長】 この審議会は、特別職と議員の月額報酬について決めるので、出張手当等については、今回は話はしないということをお願いしたい。

【事務局】 資料6の議員の公務内容については、市役所の仕事に関わっている仕事になる。他にも地域の皆さんの相談に乗ったり、調整したりというような仕事をしておられるが、その仕事は、今回の集計には入っていないし、役所で把握ができない。そのあたりのところは、数字としてお示しできないが、そういったこともあるということをお含みおきいただきたい。

【会 長】 次回は、11月14日(火)13時30分から行う。